

令和5年度 学校評価結果及び保護者アンケート結果

1 集約結果

				職員自己評価			保護者結果		
				4年度	令和5年度		4年度	令和5年度	
				101	109		133	133	
				100%	100%		92%	73%	
	評価項目	NO	実践目標(及び成果)	評価	評価	A+B割合	評価	評価	A+B割合
I 学校経営	ア 家庭や地域との連携	1	保護者や地域住民が参画しやすい学校行事やPTA行事となるよう工夫する。	A	A	96.3%			
		2	家庭や地域の意見や要望を反映するなど、連携・協力して取り組む。(教職員) 学校行事やPTA行事に、家庭や地域と連携・協力して取り組む。(保護者)	A	A	97.2%	B	A	85.0%
		3	学校ホームページや学校ブログを活用して、家庭や地域に最新情報を発信する。	A	A	99.1%	B	B	78.0%
	イ 知肢併置校としての整備推進	4	知肢併置校としての教育内容や教育環境についての協議や研修を行う。	B	B	78.9%			
		5	県・市教委、友生支援学校やあじさい学園などの諸学校と連携し課題に取り組む。	C	B	67.0%			
	ウ 進路指導体制の充実	6	卒業後の自立と社会参加をめざし、関係機関と連携して進路指導を行う。	A	A	91.7%	A	A	83.0%
		7	将来像を見据え、教員や保護者の進路意識を高める研修会を行う。	A	A	87.2%	B	B	73.0%
	エ 実践的指導力と専門性の向上	8	教育愛と使命感を持ち、特別支援教育の専門性を高める研修を行う。	A	A	87.2%			
		9	一人一人の目標と手立てを踏まえた指導案を作成し、授業力を向上させる。	B	A	88.1%			
	オ 危機管理体制の充実 個人情報の保護	10	障害の重度・重複化、多様化に対応して安全点検を行い、学習環境の改善を図る。	B	A	86.2%			
		11	危機管理マニュアルを活用し、状況に応じた行動ができるよう避難学習を実施する。	A	A	93.6%	A	A	88.0%
		12	児童生徒の個人情報(名前や写真など)を適切に管理している。	A	A	93.6%			
<p>○職員自己評価において、昨年度から評価が上がった項目について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イ-5 昨年度の反省より諸機関との連携を意識して取り組んだ成果がみられたと考える。</li> <li>・エ-9 校内研究として授業研究を位置づけ、全学年で取り組んだ成果がみられたと考える。</li> <li>・オ-10 ヒヤリハット事例の共有により、意識が上がったと考える。</li> </ul> <p>○職員自己評価において、昨年度から評価が下がった項目は無かった。</p> <p>○保護者の結果において、昨年度から評価の上昇した項目について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ア-2 PTA座談会等の取組の成果が出たと考える。</li> </ul> <p>○保護者の結果において、昨年度から評価が下がった項目は無かった。</p> <p>○職員自己評価と保護者の結果に差異がある項目について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ア-3 昨年度より学年通信に学校ブログのQRコードを記載した。さらに学校ホームページやブログの内容、更新回数について検討する必要があると考える</li> <li>・ウ-7 保護者向け進路研修会の更なる工夫が必要であると考える。</li> </ul>									
II 教育課程	カ 一貫教育の推進	13	小・中・高で児童生徒及び指導支援の情報を共有し、連続した指導を行う。	B	A	84.4%	B	B	77.0%
	キ 個別の教育支援計画の活用	14	児童生徒の将来像や伸ばしたい点など、一人一人の教育的ニーズに基づいて目標を設定し、地域資源を活用するなど適切な支援を実現する。	B	A	91.7%	A	A	82.0%
	ク 個別の指導計画による指導の充実	15	個別の教育支援計画を踏まえて実態に応じた具体的な目標と手立てを定め、適切な指導や評価を行う。	A	A	89.9%	A	A	85.0%
	ケ 指導方法や指導体制の工夫	16	各教科等における個別の目標に基づき、興味・関心、得意分野を生かすなど指導の手立てを工夫する。	A	A	90.8%			
		17	個別の目標や指導の手立てを共通理解し、指導者間の役割分担とチームワークで授業の充実を図る。	B	A	84.4%			
	コ ICTの効果的な活用	18	ICT機器を効果的に活用することで個々の児童生徒に応じたきめ細かな指導・支援を行い、学習活動の充実を図る。	B	A	89.9%	B	B	75.0%
	サ 体験活動	19	教科等の学習と体験活動を関連づけることで意欲を引き出し学習効果を高める。	B	A	89.0%	A	A	87.0%
		20	家庭生活や地域生活に結びついた体験活動で自立と社会参加への意欲と態度を養う。	B	A	90.8%	B	A	83.0%
		シ 集団活動	21	豊かな人間関係を育むために、年齢や障害の違いを超えたより活発な集団活動を計画する。	B	A	89.0%	B	A
	<p>○職員自己評価において、昨年度から評価が上がった項目について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カー-13、キ-14、ケ-17、コ-18、サ-19、20、シ-21の7項目において、評価の上昇がみられた。5月より新型コロナウイルス感染症が5類になった。これにより、普段の授業をはじめ、学校行事や校外学習、調理実習などを制約無しに実施することができ、教師のモチベーションが上がり、様々な取り組みが充実したことが一因であると考えられる。</li> </ul> <p>○職員自己評価において、昨年度から評価が下がった項目は無かった。</p> <p>○保護者の結果において、昨年度から評価の上昇した項目について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サ-19、20、シ-21の2項目において、評価の上昇がみられた。5月より新型コロナウイルス感染症が5類になったことで、体験学習や集団活動が、制限なしに実施できたことが要因であると考えられる。</li> </ul> <p>○保護者の結果において、昨年度から評価が下がった項目は無かった。</p> <p>○職員自己評価と保護者の結果に差異がある項目について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カー-13 学部間における児童生徒の情報共有についてより充実させていく。特に中学部、高等部への進学の際の引継ぎを意識して行う必要がある。</li> <li>・コ-18 ICTの活用について、校内的には活用促進の実感はあるが、保護者へ十分には伝わっていない様子がうかがえる。更に授業での活用はもちろん、各種通信やブログでの発信が必要である。</li> </ul>								
III 課題教育	ス 人権教育の推進	22	児童生徒が社会で生き生きと暮らせるよう、命の大切さや思いやりの心、コミュニケーションの力、ルールやマナー等を育成する。	A	A	94.5%	A	A	86.0%
	セ 人権意識の向上	23	人権に配慮した指導(言葉遣いなど)やいじめ早期発見のチェックリストを定期的に実施する。いじめを許さない学校をテーマとして、人権を意識した研修に取り組む。	A	A	92.7%			
	ソ 居住地校交流及び学校間交流の推進	24	年間計画を立てて育てたい力を明確にし、児童生徒同士の充実した活動になるようしっかり打ち合わせを行って実施する。	A	A	88.1%			
	タ 地域との交流	25	土曜なかよし活動(年1回)、はーとわーくす展、交流鑑賞会等の参加を地域や近隣校に呼びかけ、継続的な交流で地域への啓発を図る。(教職員) 人数制限等による「密」の回避した交流や作品を通しての交流など、感染症拡大状況に応じて工夫して地域啓発を図る。(保護者)	A	A	97.2%	A	A	84.0%
	チ 食育の推進	26	教育活動全体において食育を推進し、食への関心を高め、家庭と連携して望ましい食習慣の確立を図る。	A	A	95.4%	A	A	85.0%
	ツ 校外支援の取組	27	地域の学校や保護者のニーズを把握し、教育相談や講師派遣、就学相談、進路相談等、地域のセンター的機能の充実を図る。	A	A	96.3%			
		28	地域自立支援協議会等の関係機関と連携して講演会や進路セミナーを開催し、地域への理解啓発を推進する。	A	A	94.5%			
<p>○職員自己評価及び保護者の結果において、昨年度から評価が上がったり下がったりした項目は無かった。</p> <p>○職員自己評価と保護者の結果に差異がある項目は無かった。</p>									
IV 感染症対策	テ 健康管理	29	児童生徒の体調の変化等の観察を行い、感染症等に関する情報収集に努め、学校医、学校薬剤師等と連携しながら予防対策を徹底する。(教職員) 児童生徒の体調の変化等の観察に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底する。(保護者)	A	A	98.2%	A	A	90.0%
<p>○職員自己評価及び保護者の結果において、昨年度から評価が上がったり下がったりした項目は無かった。</p> <p>○職員自己評価と保護者の結果に差異がある項目は無かった。</p>									

2 集約結果をふまえた今後の改善方針

- 保護者といっそうの情報共有と共通理解を進め、よりニーズに合った教育活動の充実を図る。
- 引き続き、職員校内研修の充実、自己研鑽により、専門性及び指導力の向上を図る。
- 引き続き、安全点検やヒヤリハット事例の共有等を行うことで、児童生徒が安全安心な学校生活を送れるように努める。
- 職員自己評価を保護者の結果の差異がある項目については、上記の通り改善を進めていく。

